

令和5年度

岩手県普及活動年報

令和6年7月

岩手県農林水産部農業普及技術課
農業革新支援担当

はじめに

本県の農業改良普及事業は、「いわて県民計画（2019～2028）」に基づき、農業者が将来展望をもって農業経営に取り組むことができるよう、農業者の所得向上と地域課題の迅速な解決を目指し、「協同農業普及事業の実施に関する方針」の下、普及指導活動に取り組んでいます。これまでの活動に際し、農業者、関係機関・団体を始め、多くの方々から御理解と御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

現在の農業を取り巻く状況は、世界的な情勢変化や気候変動による食料安全保障上のリスクの高まりのほか、人口減少に伴う国内市場の縮小や生産者の減少・高齢化等の課題、肥料・飼料・燃料等資材価格の高騰や頻発化する自然災害、地球温暖化による夏期の高温や暖冬による収量・品質の低下など一層厳しさを増しています。

このような中、意欲ある農業者や集落が希望を持って農業に取り組み、持続的な農業生産や農村地域の発展を実現していくために、現場密着の普及組織が「スペシャリスト機能」、「コーディネート機能」、「総合的な企画運営能力」を發揮し、現場に寄添った普及活動を行うことが重要と考えています。

本県の普及指導活動は、「いわて県民計画（2019～2028）」の第2期アクションプラン策定に合わせて、令和5年から令和8年度を計画期間とした普及指導計画を新たに定め、地域農業の核となる経営体の育成を目指した「水田フル活用による収益性の高い水田農業の確立」や「環境制御技術等を活用した施設果菜類の生産拡大」のほか、「次代を担う意欲ある新規就業者の確保・育成」、「女性農林漁業者の活躍促進」、「収益力の高い農畜産物の産地形成と供給力強化」、「革新的な技術の開発と導入促進」「農山漁村の活性化」等に取り組んでいます。

本書は、県内9カ所の農業改良普及センターの農業普及員と農業革新支援専門員が実施してきた普及指導活動のうち、令和5年度の主要成果をまとめたものです。参考にさせていただければ幸いです。

今後とも、「いわて県民計画」の実現に向けて、「普及指導計画」に基づき、農業者や地域の課題解決に普及組織が一丸となって活動を展開してまいりますので、引き続きの御理解と御協力をよろしく申し上げます。

令和6年7月3日
農林水産部農業普及技術課
総括課長 鈴木 茂寿

目 次

◆ 気象経過と農作物の生育概況		
Ⅰ 令和5年1月から令和5年12月までの気象概況	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
Ⅱ 農作物の生育概況	・・・・・・・・・・・・・・・・	9
◆ 普及指導活動の成果		
Ⅰ 「意欲と能力のある経営体の育成」に対する支援		
米水田フル活用に向けた経営体の作業工程・技術改善支援の取組	・・・・・・・・（革新）	20
酪農経営体を対象とした経営改善支援活動	・・・・・・・・（革新）	22
意欲ある女性農業者の経営力向上・経営参画支援	・・・・・・・・（革新）	24
花き新規栽培者の確保に向けた取組	・・・・・・・・（革新）	26
次世代を担う若手酪農家と若手指導者の能力向上と 「つながり」構築の支援	・・・・・・・・（革新）	28
専門家派遣を活用した重点支援対象者の経営改善支援	・・・・・・・・（盛岡）	30
水田フル活用に係る大規模にんにく生産技術及び省力化に係る支援	・・・・・・・・（八幡平）	32
経営の安定と雇用確保のため専門家を活用し、法人化実現	・・・・・・・・（中部）	34
ピーマンの新規・若手生産者におけるグループ化の検討	・・・・・・・・（中部）	36
青年農業者の意欲喚起に向けた表彰事業等の取組	・・・・・・・・（奥州）	38
花き新規生産者の育成強化による生産安定	・・・・・・・・（奥州）	40
関係機関と連携して取り組む一体的な新規就農者支援	・・・・・・・・（一関）	42
一関地域における資材高騰に対応した酪農経営体支援の取組	・・・・・・・・（一関）	44
農業入門塾による就農支援	・・・・・・・・（大船渡）	46
園地継承希望者データベースを活用した担い手への園地集積	・・・・・・・・（大船渡）	48
宮古地域における「銀河のしずく」生産拡大の取組	・・・・・・・・（宮古）	50
関係機関と連携した地域酪農家への濃密指導	・・・・・・・・（久慈）	52
希望者の円滑な就農支援、就農後の経営安定にむけて	・・・・・・・・（二戸）	54
伴走型支援による経営体等の課題解決支援	・・・・・・・・（二戸）	56
Ⅱ 「収益力の高い農畜産物の産地形成と供給力強化」に対する支援		
環境制御技術等を活用した施設果菜類の生産拡大	・・・・・・・・（革新）	58
県産米の持続的な産地力向上に向けた取組の支援	・・・・・・・・（革新）	60
県北地域におけるスマート農業技術導入による 生産性向上に向けた取組	・・・・・・・・（革新）	62
環境保全型農業の推進体制の構築と普及拡大	・・・・・・・・（革新）	64
農業生産工程管理（GAP）の取組拡大	・・・・・・・・（革新）	66
実需ニーズに応えるりんどう産地の形成支援	・・・・・・・・（盛岡）	68
耕畜連携による地域資源を活用した化学肥料代替技術の実証	・・・・・・・・（八幡平）	70
ピーマンの安定生産に向けた取組	・・・・・・・・（中部）	72
西和賀町における「西わらび」の生産拡大支援	・・・・・・・・（中部）	74

奥州発！自給飼料増産の取組～稲WCS専用品種の普及拡大～	(奥州)	76
りんどう千鳥疎植栽培による増収効果の検証	(一関)	78
水稲の低コスト化に向けた鶏ふんペレット肥料の実証	(大船渡)	80
水田への土地利用型野菜の作付拡大に向けた秋どりブロッコリーの実証	(大船渡)	82
新規品目の導入による久慈地域園芸産地の新たな取組	(久慈)	84
果樹におけるスマート農業技術導入支援	(二戸)	86
III 「農山漁村の活性化」に対する支援		
食のプロフェッショナルアドバイザー等を活用した産直活動支援	(盛岡)	88
地元高校と連携した郷土料理の情報発信	(大船渡)	90
宮古地方食の匠の会による食文化伝承活動への支援	(宮古)	92
郷土食を活かした魅力ある農村づくり	(久慈)	94
IV 「東日本大震災津波からの復旧・復興と大規模自然災害等への対応」に対する支援		
令和5年の果樹における凍霜害発生に対する対応	(中部)	96
水田を活用するモデル経営体の育成(たまねぎの単収向上支援)	(大船渡)	98
施設園芸経営体における作業管理改善に向けた取組 (Hs farm)	(大船渡)	100
◆ 参考資料		
I 令和5年度普及指導活動時間集計		104
II 令和5年度普及関係職員名簿		105
III 令和5年度普及関係公所の所在地及び連絡先		117

◆ 気象経過と農作物の生育概況

I 令和5年1月から令和5年12月までの気象概況

II 農作物の生育概況

I 気象の概況

1 年間の気象概況

- 1月は、中旬に高温、下旬に低温となった
- 2月は、特徴はなかった
- 3月は、高温、日照時間が多かった
- 4月は、高温、日照時間が多かった
- 5月は、寒暖の差が大きかった
- 6月は、記録的な高温となった
- 7月は、高温、内陸で大雨となった
- 8月は、高温、局地的大雨があった
- 9月は、高温となった
- 10月は、高温、日照時間が多かった
- 11月は、高温、内陸中心に降水量が多い、日照時間が少なかった
- 12月は、高温、降水量が多い、日照時間が少なかった

2 旬別の気象概況 ※岩手県の天候のまとめ（盛岡地方気象台作成）より抜粋

〈1月〉：中旬の高温、下旬の低温

上旬：平均気温は、平年並だった。降水量は、内陸はかなり少ないから少なく、沿岸はかなり少なかった。日照時間は、平年並から平年より多く、内陸では少ない所もあった。

中旬：平均気温は、かなり高かった。降水量は、内陸は多く南部で平年並、沿岸北部は多く沿岸南部は平年並だった。日照時間は、かなり少ないから少なく、内陸では平年並みの所もあった。

下旬：平均気温は、かなり低かった。降水量は、平年並で内陸では多い所もあった。日照時間はかなり少ないから少なく、内陸では平年並みの所もあった。

〈2月〉：特徴なし

上旬：1日と10日は雪や雨となった。平均気温は、内陸は低く平年並みの所もあった。沿岸は平年並だった。降水量は、内陸は多くかなり多い所もあった。沿岸北部は平年並で多い所もあった。沿岸南部は多かった。日照時間は、内陸は多く平年並みの所もあった。沿岸は平年並だった。

中旬：19日は雪や雨となった。平均気温は、高いから平年並。降水量は、内陸は平年並で少ない所があった。沿岸は多く平年並みの所もあった。日照時間は、平年並から少なく、多い所もあった。

下旬：28日は気温がかなり高くなった。平均気温は、平年並で高い所もあった。降水量は、内陸は少ないからかなり少なかった。沿岸北部は平年並から少なく、沿岸南部はかなり少なかった。日照時間は、平年並で多い所もあった。沿岸は多く平年並みの所もあった。

〈3月〉：高温、日照時間が多い

上旬：晴れる日が多かった。平均気温は、かなり高かった。降水量は、かなり少ないから少なく北部で平年並みの所もあった。日照時間は、内陸と沿岸南部でかなり多かった。沿岸北部は多く平年並みの所もあった。

中旬：晴れる日が多かった。平均気温は、内陸はかなり高く沿岸部は高いからかなり高かった。降水量は、平年並から少なかった。日照時間は、かなり多いから多かった。

下旬：26日は大雨となった所があった。平均気温は、かなり高かった。降水量は、かなり多いから多く沿岸北部で平年並みの所もあった。日照時間は、かなり多いから多く沿岸南部で平年並だった。

〈4月〉：高温、日照時間が多い

上旬：9日明け方には、雪が降ったところがあった。平均気温は、かなり高かった。降水量は、平年並で沿岸南部では少ないところもあった。日照時間は、かなり多い方多かったが、沿岸北部では平年並みの所が多かった。

中旬：15日から16日にかけて広い範囲で雨となった。平均気温は、内陸で平年並、沿岸は高かった。降水量は、平年並だが内陸では多いところがあった。日照時間は、多く沿岸北部ではかなり多かった。

下旬：26日は大雨となった所があった。平均気温は、内陸で平年並、沿岸は高かった。降水量は、平年並から多かったが、沿岸北部では少ない所があった。日照時間は、多く沿岸北部ではかなり多い所があった。

〈5月〉：寒暖の差が大きい

上旬：6日から8日にかけて雨となり、8日は北部山沿いを中心に雪が降った。平均気温は、沿岸は平年並だが内陸では低かった。降水量は、沿岸は多く内陸ではかなり多かった。日照時間は、平年並から多かった。

中旬：18日は各地で真夏日となった。平均気温は、高いからかなり高かったが、北部では平年並みの所があった。降水量は、少ないから平年並で、内陸では多い所があった。日照時間は、平年並から多かった。

下旬：曇りや雨の日が多かった。平均気温は、内陸は平年並で、沿岸は高かった。降水量は、内陸はすくないからかなり少なく沿岸はかなり少なかった。日照時間は、平年より少ないが、内陸では平年並みの所も多かった。

〈6月〉：記録的な高温

上旬：雨の降る日が多かった。平均気温は、たかく、沿岸はかなり高いところが多かった。降水量は、内陸は多く、かなり多いところがあり、沿岸は平年並で多いところがあった。日照時間は、平年並から多かった。

中旬：16日は県南部を中心に大雨となった。平均気温は、高く沿岸ではかなり高いところがあった。降水量は、多いからかなり多かった。日照時間は、平年並だった。

下旬：曇りや雨の日が多かった。平均気温は、高いからかなり高かった。降水量は、平年並から多いが、南部では少ないところがあった。日照時間は、沿岸は平年並、内陸は平年並から少ない。

〈7月〉：高温、内陸で大雨

上旬：曇りや雨の降った日が多かった。平均気温は、高いからかなり高かった。降水量は、少ないからかなり少なかった。日照時間は、平年並から多かった。

中旬：雨や曇りの日が多く、15日から16日および18日は内陸で記録的な大雨となった。平均気温は、高いからかなり高かった。降水量は、少ないからかなり少なかった。日照時間は、平年並から多かった。

下旬：晴れて暑い日が続いた。また、31日は北部を中心に雨や雷雨となった。平均気温は、かなり高い。降水量は、かなり少ないから少ないが、北部では平年並みのところもあった。日照時間は、かなり多かった。

〈8月〉：高温、局地的大雨

上旬：晴れて気温の高い日が続いた一方、雨や雷雨となることもあった。平均気温は、かなり高かった。降水量は、少なく平年並の所もあった日照時間は、内陸はかなり多いから多い、沿岸北部

はかなり多い、沿岸南部は平年並だった。

中旬：台風第7号の影響により、雨や雷雨の日が多かった。特に13日夜は沿岸北部のごく沿岸部で局地的に猛烈な雨が降った。平均気温は、かなり高かった。降水量は、かなり多かった。日照時間は、平年並だが内陸南部で多い所があった。

下旬：晴れて気温の高い日が続いた一方、台風第10号の北上等の影響で、雨や雷雨となった所があった。平均気温は、かなり高かった。降水量は、内陸はかなり少なく、沿岸は平年より少ないからかなり少なかった。日照時間は、かなり多かった。

〈9月〉：高温

上旬：雨や雷雨の日が多かった。平均気温は、かなり高かった。降水量は、内陸と沿岸北部で平年並から多く、沿岸南部では多いからかなり多かった。日照時間は、内陸は平年並、沿岸は少なかった。

中旬：曇りや雨の降る日が多かった。平均気温は、高いからかなり高かった。降水量は、内陸は少ないから平年並、沿岸では少ないからかなり少なかった。日照時間は、平年並だった。

下旬：21日は、内陸や沿岸北部で大雨となった。平均気温は、高いからかなり高かった。降水量は、内陸は多いからかなり多く、沿岸では多いから平年並だった。日照時間は、平年並だが、沿岸では少ない所もあった。

〈10月〉：高温、日照時間が多い

上旬：10日は、沿岸を中心にやや強い雨が降った。平均気温は、沿岸は高く、内陸では平年並から高かった。降水量は、平年並で、内陸では多い所もあった。日照時間は、平年並で、北部では多い所もあった。

中旬：晴れる日が多かったが、15日と20日は、雨となった。平均気温は高く、内陸では平年並みの所もあった。降水量は、平年並。日照時間は、平年並から多く、南部ではかなり多い所もあった。

下旬：28日から29日は沿岸北部を中心に雨となった。平均気温は、平年並で、沿岸では高い所があった。降水量は、少ないからかなり少なく、北部では平年並や多い所があった。日照時間は多いからかなり多かった。

〈11月〉：高温、内陸中心に降水量が多い、日照時間が少ない

上旬：7日は、沿岸南部を中心にまとまった雨がふった。平均気温は、かなり高かった。降水量は、多いから平年並だった。日照時間は、平年並だった。

中旬：曇りや雨の日が多かった。平均気温は、平年並だった。降水量は、多く、かなり多いところもあった。日照時間は、平年並から少なかった。

下旬：内陸を中心に雨や雪の日が多かった。平均気温は、平年並から平年より高かった。降水量は、多く、沿岸は平年並から少なかった。日照時間は、少なかった。

〈12月〉：高温、降水量が多い、日照時間が少ない平均気温が低い

上旬：内陸の山沿いを中心に雪や雨の日が多かった。平均気温は、高いからかなり高かった。降水量は、平年並から少なく、北部で多い所があった。日照時間は、平年並から少なく、かなり少ない所があった。

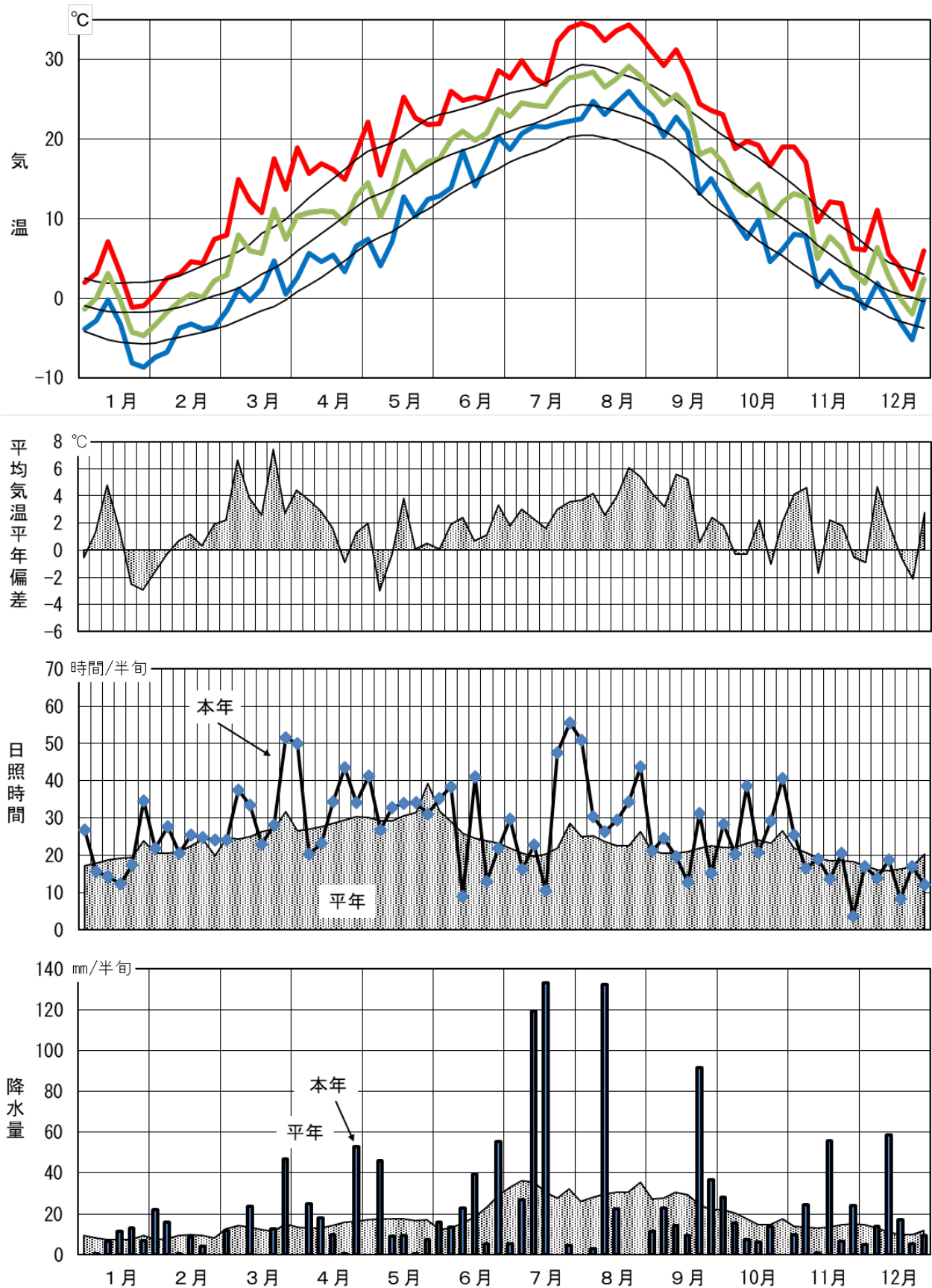
中旬：雨や雪の日が多かった。平均気温は、高かった。降水量は、平年並から少なく、南部ではかなり少なかった。日照時間は、平年より少ないからかなり近かった

下旬：雪や雨の降る日もあった。平均気温は、平年並だが、南部では高い所があった。降水量は、平年並から少なく、南部ではかなり少ない所があった。日照時間は、平年並から少なかった。

3 主な気象データ

(1) 盛岡における気温、降水量、日照時間

2023年の気象経過[旬別：盛岡地方気象台]



(2) 梅雨入り、梅雨明け（東北北部）

	月 日	平 年 (平年差)	昨 年 (昨年差)
梅雨入り	6月9日頃	6月15日頃 (6日早い)	6月6日頃 (9日早い)
梅雨明け	7月22日頃	7月28日頃 (6日早い)	— (—)

(3) 気象官署（盛岡、宮古、大船渡）における記録更新（第5位まで）

ア 月平均気温

気象官署	月	記録 (°C)	備 考
大船渡	3	8.0	高い方から1位
盛岡	3	6.9	高い方から1位
宮古	3	6.7	高い方から2位
盛岡	4	10.9	高い方から3位
宮古	4	11.4	高い方から2位
大船渡	4	11.8	高い方から1位
大船渡	6	20.1	高い方から1位
盛岡	6	20.5	高い方から4位
宮古	6	19.0	高い方から3位
大船渡	7	25.1	高い方から1位
盛岡	7	25.0	高い方から2位
宮古	7	23.4	高い方から4位
大船渡	8	27.3	高い方から1位(通年の極値更新)
盛岡	8	27.9	高い方から1位(通年の極値更新)
宮古	8	27.2	高い方から1位(通年の極値更新)
大船渡	9	23.4	高い方から1位
盛岡	9	22.8	高い方から2位
宮古	9	22.4	高い方から2位
大船渡	10	15.3	高い方から5位
大船渡	11	10.4	高い方から3位
盛岡	11	8.0	高い方から2位
宮古	11	9.7	高い方から4位
大船渡	12	4.8	高い方から5位

イ 日最高気温

気象官署	月 日	記録 (°C)	備 考
盛岡	1月12日	11.0	高い方から5位
大船渡	1月13日	14.7	高い方から4位
盛岡	1月25日	-5.9	低い方から4位
大船渡	1月25日	-4.7	低い方から5位
宮古	1月25日	-4.8	低い方から4位
大船渡	3月31日	21.2	高い方から5位
盛岡	3月22日	21.5	高い方から1位

大船渡	5月18日	32.6	高い方から2位
宮古	5月18日	33.0	高い方から1位
盛岡	5月8日	7.0	低い方から2位
大船渡	7月30日	37.0	高い方から1位(通年の極値更新)
大船渡	7月31日	35.6	高い方から3位
大船渡	7月29日	35.5	高い方から4位
盛岡	7月30日	35.7	高い方から4位
盛岡	8月5日	36.4	高い方から2位
宮古	8月3日	36.2	高い方から4位
盛岡	9月1日	33.5	高い方から3位
宮古	9月18日	34.2	高い方から2位
大船渡	11月3日	24.6	高い方から1位
盛岡	11月3日	22.6	高い方から1位
宮古	11月3日	25.8	高い方から5位
大船渡	12月9日	17.7	高い方から5位

ウ 日最低気温

気象官署	月 日	記録(℃)	備 考
盛岡	1月14日	2.4	高い方から2位
大船渡	1月14日	5.9	高い方から5位
盛岡	3月23日	12.3	高い方から1位
宮古	6月28日	21.2	高い方から4位
大船渡	7月30日	24.5	高い方から4位
大船渡	8月16日	26.7	高い方から2位
大船渡	8月23日	26.5	高い方から3位
大船渡	8月9日	26.0	高い方から4位
大船渡	8月7日	25.9	高い方から5位
盛岡	8月25日	26.6	高い方から1位(通年の極値更新)
盛岡	8月24日	26.6	高い方から2位
盛岡	8月23日	25.8	高い方から3位
盛岡	8月26日	25.5	高い方から4位
盛岡	8月22日	25.5	高い方から5位
宮古	8月10日	25.1	高い方から3位
宮古	8月5日	25.1	高い方から4位
大船渡	9月1日	24.8	高い方から3位
大船渡	9月5日	24.2	高い方から5位
盛岡	9月1日	24.4	高い方から3位

エ 月間日照時間

気象官署	月	記録 (時間)	備考
大船渡	1	116.5	少ない方から3位
盛岡	3	197.9	多い方から4位
大船渡	7	194.2	多い方から5位
宮古	8	252.7	多い方から4位
宮古	12	117.0	少ない方から5位

オ 日降水量

気象官署	月 日	記録 (mm)	備考
大船渡	3月26日	109.0	多い方から1位

カ 日最大10分間降水量

気象官署	月 日	記録 (mm)	備考
大船渡	3月23日	4.0	多い方から4位
盛岡	8月12日	19.0	多い方から3位

キ 日最大1時間降水量

気象官署	月 日	記録 (mm)	備考
—	—	—	—

ク 月降水量

気象官署	月	記録 (mm)	備考
大船渡	3	183.5	多い方から3位

ケ 月最大24時間降水量

気象官署	月 日	記録 (mm)	備考
大船渡	3月26日	111.5	多い方から3位
盛岡	7月19日	109.5	多い方から3位

コ 日最大風速・風向

気象官署	月 日	記録 (m/s)	備考
大船渡	1月24日	14.3 (北西)	大きい方から5位
大船渡	12月17日	14.3 (北西)	大きい方から5位

II 農作物の生育概況

1 水稲

(1) 播種期～育苗期・・・播種盛期は平年並の4月16日、苗質は平年に比べ良好

県全体の播種盛期（50％）は平年並の4月16日頃となった。育苗期の気温は、4月第6半旬及び5月第1、4半旬で高く、5月第2、第3半旬で低く推移するなど寒暖差が大きかったが、概ね平年並みからやや高く推移した。地域や品種によってばらつきはあるものの、概ね充実度の高い苗となった。

細菌病類の発生施設率は48.5％（平年24.8％）で平年より高かったが、発生箱率は0.10％（平年0.17％）で平年よりやや低かった。苗立枯病の発生施設率は12.1％（平年30.0％）と平年より低く、発生箱率は0.12％（平年0.20％）と平年並だった（病害虫発生現況情報）。

【現地の指導対応】

3月～4月の育苗指導会や技術情報では、健苗育成や病害対策（細菌病等）について周知した。

(2) 移植期～分けつ期・・・移植盛期は平年並み、初期生育は平年に比べ良好

県全体の移植盛期（50％）は5月17日、終期（90％）は5月24日でいずれも平年並であり、各地域とも概ね、適期内に田植え作業が終了した。6月第1半旬から第2半旬の気温は平年並みに推移し、活着後の生育は概ね順調に進んだ。生育診断予察圃における6月15日現在の生育（県平均）は、草丈32.2cm（平年差+1.7cm）、茎数269本/m²（平年比106％）、葉数6.9葉（平年比+0.1葉）であった。6月第3半旬は全県的に日照時間が短かった。続く6月第4半旬・第5半旬は気温・日照時間も平年を上回り、6月下旬の茎数は平年比106％であった。生育診断圃における中干しの実施はほぼ平年並みの6月28日～7月11日頃であった。7月第1、2半旬は降水量が少なく、各地域で中干しが順調に行われた。6月26日時点の茎葉窒素濃度は平年に比べやや低く、乾物重が大きく、稲体窒素吸収量は全県でやや多かった。土壌中アンモニア態窒素含量は全県で少なかった。なお、東北北部の梅雨入りは6月11日頃であり、平年に比べ4日早かった。

【現地の指導対応】

5～6月の技術情報や指導会において、初期生育確保のための管理を重点的に指導した（品種・地域に応じた施肥、栽植密度・本数の確保、生育段階に応じた水管理）。目標茎数を早めに確保できた地域では平年よりも早く中干しを実施した。

(3) 幼穂形成期から減数分裂期まで・・・草丈やや長く、茎数やや少ない

幼穂形成期は7月9日頃（平年比-2日）、減数分裂期は同19日頃（同-4日）であった。6月第3半旬の全県的な寡照の影響により、7月10日の生育診断圃の茎数は平年の97％となった。幼穂形成期の乾物重は平年比107％と上回ったが、稲体窒素濃度は平年を0.3pt下回り、窒素吸収量は平年比85％となった。品種別ではひとめぼれ・あきたこまちで窒素吸収量が平年を下回り、生育はやや不足傾向であった。なお、東北北部の梅雨明けは7月22日頃であり、平年に比べ6日早かった。

【現地の指導対応】

追肥方針は幼穂形成期重点（「金色の風」は減数分裂期重点）、窒素成分1～2kg/10a内で加減し、生育が過剰な場合は追肥量を減らす対応とし、また肥効調節型肥料を使用した場合は追肥しないこととした（7/4第1回稲作技術対策会議）。なお、各地域の追肥指導はN成分1～1.5kg/10aが多く、上限2kg/10aとした地域もあった。

斑点米カメムシ類については、発生が早く、7月上旬の発生も多かったことから、出穂10～15日前までの草刈り徹底を呼び掛けた（7/14防除速報No8水稲編-4）。葉いもちについては、県内の複数のほ場で葉いもちの発生が確認されたことから、葉いもちの早期発見と防除、穂いもち防除の適期実施を呼び掛けた（7/12防除速報No8水稲編-3）。

(4) 出穂期～成熟期・・・出穂期は平年に比べ3日早く、高温・多照により成熟期は10日早い

減数分裂期頃（7月第5半旬）から気温が高く、日照時間も多く推移し、出穂盛期（50％）は各地帯で平年より3～4日早く、県全体で平年より3日早い8月1日となった。8月の高温・多照により登熟が急速に進み、9月1日時点で、沈下籾粒数歩合は県平均で平年を7.9ポイント上回り、東部では黄化籾割合が8割に達していた。成熟期は県全体で平年より10日早い9月7日頃で、登熟日数は平年より7日短かった。

穂いもちは、葉いもちの上位3葉での発生が平年より少なく、7月第5半旬から8月第2半旬が高温多照で経過し、降雨がほとんどなかったため、発生は少なかった。斑点米は、斑点米カメムシ類の発生がやや多かったこと、割籾が平年よりもやや多かったことから、平年よりもやや多かった。なお、割籾はあきたこまち、いわてっこで多かった（12/13病害虫防除実績検討会）。

【現地の指導対応】

8月の気温が高い予報であったため、各地域で夜間かんがいなどの高温対策の水管理について重点的に指導を行った。また、高温により刈取り適期が大幅に早まる見込みであったことから、指導会等で適期刈取りの徹底について指導を行った（8/下～9/上 刈取り指導会、8/29 県技術情報第6号 9/21・10/2・10/16 報道発表他）。

(5) 収量及び収量構成要素・・・作況指数 104

生育診断予察圃の精玄米重（ふるい目 1.90mm）は、県平均で平年比 103%となった。収量構成要素は平年に比べ穂数やや少なく、1穂籾数やや多、総籾数やや少～並、登熟歩合やや高く、千粒重は並であった。粒厚分布は平年に比べ 2.2mm ふるい上が多かった。農林水産省による令和5年産水稻の本県の作況指数は「104」（ふるい目 1.90mm）となった（東北農政局「令和5年産水稻の収穫量（東北）」12月12日公表）。

(6) 品質・・・うるち1等米比率 91.5%

うるち米1等米比率は91.5%であり、前年同期に比べ5.2pt低かった（農林水産省「令和5年産米の農産物検査結果（速報値）令和5年12月31日現在」）。2等以下に格付けされた理由は、着色粒48.6%、形質31.0%、被害粒16.4%であった（農林水産省「令和5年産米の農産物検査結果（速報値）（岩手）令和5年10月31日現在」）。

2 畑作物

(1) 小麦

【令和5年産小麦（令和4年播種）】

ア 播種～初期生育

播種作業は連作圃場を中心に9月中旬頃から始まった。水稻収穫後の圃場では、水稻の刈取りが遅れた影響でやや播種が遅れたものの、播種後は好天が続いたことから生育は全般に良好で、越冬前に生育量を確保することができた。

イ 越冬後の生育

12月中旬から根雪となり、根雪期間は県北部（県北農業研究所：軽米）では平年より長い8日（平年70日）、県南部（農業研究センター：北上）では平年並みの75日（平年79日）であった。

融雪後、3月の気温が平年よりかなり高く経過（+4.2℃）したことから生育が進んだ。また、全般に好天が続いたことから融雪期追肥や麦踏みが実施された。

ウ 茎立～出穂・開花

幼穂形成期は、平年より10日前後早い3月末に達し、その後も気温が高めに経過したことから生育は順調で、茎数は概ね平年並みを確保した。また、生育の早まりに応じ、順次、茎葉処理除草剤が散布された。

出穂期(5月上旬から中旬)及び開花期は平年より7日程度早まった。このため、穂揃い期追肥や赤かび病の薬剤防除作業も例年より早まった。

エ 登熟・刈り取り状況

出穂期が早まったことに伴い、成熟が平年より早まり、県南部の早いところでは6月21日から収穫作業が開始された。降雨があったものの、日中は晴れる日が多かったことなどから作業は順調に進み、7月上旬で収穫は概ね終了した。

成熟期調査結果(農研センター作況調査、普及センター生育診断圃調査より)

- ・出穂 ゆきちから・ナンブコムギとも平年より約7日早い
- ・成熟 ゆきちから・ナンブコムギとも平年より約7日早い
- ・稈長 ゆきちから・ナンブコムギとも平年より長い
- ・穂長 ゆきちから・ナンブコムギとも平年よりやや長い
- ・穂数 ゆきちからは平年並み、ナンブコムギは平年より多い。

オ 収穫量及び検査結果

農林水産省発表による令和5年産県平均単収は、平均収量対比(直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値:216kg/10a)94の204kg/10aとなった(令和4年産240kg/10a・対比117、令和3年産211kg/10a・対比107、令和2年産220kg/10a・対比114)。

令和5年産麦類の検査結果(令和5年10月末現在:速報値)は、検査数量が7,475t(令和4年産8,344t、令和3年産7,464t、令和2年産7,833t)、一等比率が95.2%(令和4年産93.9%、令和3年産93.0%、令和2年産75.0%)となった。

カ 病害の発生(病虫害防除所調査結果より)

(ア) 雪腐病:発生圃場率は平年並みとなった。地域別では、県北部がやや高かった。

(イ) 縞萎縮病、萎縮病:発生圃場率は平年より低かった。

(ウ) 赤かび病:6月中旬の調査では、発生圃場率は22.9%(平年14.8%)で平年より高かったが、発病穂率は平年並みだった(図3)。地域別では県南部で発生圃場率が高かった

【令和6年産小麦(令和5年播種)】

9月下旬から10月上旬にかけての降雨の影響により、全般に播種の遅れがみられた。

適期播種された圃場の苗立ち・初期生育は良好で、その後の気温が高めで、日照時間も多く経過したことから生育は良好で、越冬前に生育量を確保することができた。

12月以降、全般に気温が高く、降雪も少なかったことから、根雪期間は0日となった。このため、3月の生育量は平年を上回って経過している。

(2) 大豆

ア 播種～出芽期

5月下旬から6月上旬にかけて好天が続いたことから、播種作業は順調に進んでいたが、梅雨入り(6/11ごろ)以降の断続的な降雨により、播種作業が6月下旬まで続くところがみられた。

イ 子葉展開期～本葉展開期

全般に出芽・初期生育は順調に経過したが、播種が遅れた圃場では生育量が不足したほか、7月中旬の降雨で滞水した圃場では生育の停滞がみられた。

(7月中旬に短期間の大雨が発生 7/15-16、7/18-19)

7月下旬から8月上旬にかけて、降雨がほとんどなく、高温に経過したことから干ばつ傾向であった。

ウ 開花期

6月下旬以降、気温が高く経過し、開花期は、県北部、県南部とも平年より3日程度早い7月末に達した。

エ 莢伸長期～莢肥大期

開花期以降、全般に気温がかなり高く、日照時間も多かったことから生育量は平年を上回り、子実肥大は順調に経過した。

オ 黄変期～成熟期、収穫期

登熟期間が全般に気温が高めで経過したことから、黄化・落葉が遅れ、概ね成熟期は平年より4日程度遅く達した。特に、播種が遅れた圃場では、黄化・落葉の遅れが目立った。

10月下旬は好天が続いたものの、その後11月は晴れた日が続かなかったことや11月下旬に降雪があったことなどから、収穫が12月上旬まで遅れた。

カ 病害虫の発生状況（病害虫防除所調査結果より）

(ア) 紫斑病：発生量はやや多。

(イ) ベと病：発生量はやや少。シュウリュウで発生割合が高かった。

(ウ) ウイルス病（褐斑粒）：発生量は並（平年少発生）

(エ) アブラムシ類：発生量は並（平年少発生）

(オ) マメシンクイガ：発生量はやや少。

(カ) 吸汁性カメムシ類：発生量は多。

キ 収量及び品質

農林水産省発表による令和5年度県産平均単収は、平均収量対比（直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）85の10aあたり121kgとなった。（令和3年産147kg、令和2年産131kg、令和元年産147kg）

令和5年産大豆（普通大豆）の検査結果（令和6年1月31日現在：速報値）は、検査数量が1,891t（令和4年産4,393t、令和3年産4,423t、令和2年産3,360t）、一等比率は22.4%であった（令和4年産51.7%、令和3年産46.9%、令和2年産49.5%）。

3 野菜

(1) きゅうり

露地普通作型では、育苗期に低温に遭遇したが、その後は概ね順調に定植された。定植後は、好天に恵まれ例年よりも生育がやや早い傾向で推移した。7月中旬の多雨により一部生育の停滞が見られたが、その後好天により生育は回復した。8月以降は、高温乾燥が続き、尻細果の発生や草勢の低下などの影響が見られた。9月も高温が続いたため、成り疲れによる草勢低下が著しく、病害の発生も助長し、枯れ上がる圃場が散見された。

病害虫では、7月から8月にかけてベと病や炭疽病、8月後半には褐斑病の発生が見られた。高温が続いたため、9月になってウリノメイガ（ワタヘリクロノメイガ）の発生が目立った。

(2) トマト

雨よけ作型では、定植後に低温に遭遇したが、その後概ね順調に生育した。7月には、初期の低温による障害果の発生や曇天による生育停滞が見られた。8月は、高温が続き、落花や草勢低下、裂果、着色が早まる、小玉傾向など、高温による影響が大きく、出荷量が減少した。9月に入り、高温の影響が続き、気温の低下とともに草勢も低下し、例年よりも早く栽培を終了する圃場が多くみられた。

病害虫では、7月から例年よりも早くオオタバコガの発生が見られ、高温が続いた9月まで発生が続いた。一部では、コナジラミの発生が多く見られた。灰色かび病や葉かび病、すすかび病、うどんこ病は、発生は見られたが多くはなかった。

(3) ピーマン

雨よけ作型では平年並みの4月上旬より定植が行われ概ね順調な活着となり、その後の生育も概ね順調であった。収穫初期から尻腐果の発生が見られる地域もあったが、平年並みの5月下旬頃から収穫が開始された。その後気温の上昇とともに収穫量が増加したが、7月中旬の降雨・日照不足や、その後の高温により尻腐果の発生が増加した。8月は高温が続き、草勢が低下したうえ、日焼け果などの障害果の発生が多かった。9月は高温の影響を受け、花数の低下や、例年より早く赤果が発生した。全体として収穫量はやや少なめであった。

露地作型では平年並みの4月下旬からトンネル栽培、5月下旬から露地栽培の定植が行われた。7月中旬の降雨の影響により斑点病の発生が増加した。収穫開始は平年並みとなった。収穫期以降は、高温・乾燥傾向で推移したため尻腐れ果の発生や、草勢低下により例年より早めに赤果の発生が目立つようになった。

病害では、露地作型で斑点病が7月中旬頃から発生し、9月以降は平年並みの発生となった。その他、降雨の多い時期を中心に灰色かび病、斑点細菌病の発生がみられた。

虫害では、アザミウマ類、アブラムシ類の発生が5月～9月にみられた。タバコガ類は7月下旬から発生し、残暑の影響により9月は例年より発生が多かった。

(4) ほうれんそう

雨よけ栽培では、例年並みの3月上旬から播種が始まり、その後は概ね順調な生育となった。しかし、7月下旬からは連日高温となり、発芽後の枯死や生育停滞といった高温障害が多くみられた。この傾向は9月まで続き、8～9月の収穫量は例年より大きく減少したが、10月には概ね順調な生育に回復した。

病害では、べと病は少なかったが、高温期に萎凋病等の立枯性病害が多くみられた。また、一部で白斑病が発生した。

害虫では、4月～6月と10月にホウレンソウケナガコナダニの被害がみられたが、例年より少ない傾向となった。6月からはアザミウマ類、アブラムシ類の被害がみられ、7月からはヨトウムシの被害が確認された。8月～9月にはシロオビノメイガの被害が例年より多くみられた。

(5) ねぎ

早い作型では3月下旬から定植が開始され、秋冬期どり作型の6月中旬まで定植が続いた。定植後は比較的順調な生育で推移したが、7月中旬の降雨以降、高温・乾燥が続いたため生育停滞する圃場が多かった。土壌水分が維持されている圃場では平年並みの収穫開始となった。品質的にも例年より細いものが多かった。

病虫害では、7月下旬から9月上旬に高温・降雨の影響により軟腐病が平年より多く発生した。その他、べと病・さび病が7月上旬頃、葉枯病、黒斑病が7月中旬から9月、アザミウマ類が6月から9月に発生した。

(6) キャベツ

高冷地キャベツの定植開始は、例年より早く4月中旬となった。4月下旬の降霜により生育停滞がみられ、5月以降の温度上昇により回復したものの、出荷開始は例年よりやや遅く6月下旬となった。7月下旬以降の高温・乾燥が続いたことにより緩慢な生育となり、葉焼け症状がみられた。9月下旬の降雨により生育が回復したが、全体の出荷量は平年より少なくなった。

病害では、6月から黒斑細菌病の発生がみられ、昨年より一か月程度発生が早かった。8月から株腐病、黒腐病、軟腐病の発生がみられ、平年より被害が多かった。10月にべと病の発生がみられた。

害虫では、コナガ、タマナギンウワバ、ヨトウムシの発生が5月以降にみられ、タマナギンウワバ、ヨトウムシの被害は平年より多かった。オオタバコガは9月上旬以降、発生がみられ、被害は平年より多かった。

(7) レタス

高冷地レタスの定植開始は、例年より10日程度早まったが、その後の低温の影響もあり、結球レタスの出荷開始は例年並みの5月下旬となった。7月下旬以降、高温・乾燥により緩慢な生育となり、結球レタスでは不結球、非結球レタスでは抽苔がみられ、全体の出荷量は平年より少なくなった。

病害では、6月から菌核病、軟腐病、腐敗病、べと病の発生がみられ、被害は平年並みであった。8月～9月に褐斑病の発生がみられ、平年より被害が多かった。

害虫では、6月からナモグリバエの発生がみられ、8月からヨトウムシとタマナギンウワバの発生がみられた。9月からタバコガ類の発生がみられ、平年より被害が多かった。

4 花き

(1) りんどう

ア 生育期

3月から4月にかけて平年より高温で推移したことで、萌芽期は平年より早く、初期生育は進んだ。5月上旬に一時低温となり生育の停滞みられ、県北地域を中心に降雪による茎の曲がりや茎折れなどの被害が発生した。

5月中旬から7月中旬にかけて平年よりやや高温で経過したことで生育は進み、側芽の発生は平年より早くなった。

イ 開花期

極早生種や早生種は、側芽発生以降も生育が順調に進み、平年より1週間程度開花が前進した。極早生種の「いわて夢あおい」は県南地域で5月末から出荷となった。また、7月下旬からの猛暑による開花遅延の影響はみられず、早生種は盆需要期前に出荷盛期となる地域が多かった。

一方、晩生種は、平年より早く側芽が発生したが、7月下旬から9月中旬にかけての猛暑の影響で、開花の遅延がみられ、平年並みからやや遅い開花となった。

8月中旬以降に開花する品種を中心に、県全域で高温による花卉の着色障害や頂花の開花遅延の発生がみられた。

ウ 病害虫

病害では、葉枯病、黒斑病、褐斑病の発生が多かった。特に、8月下旬以降、黒斑病が県全域で多発し、出荷量が減少する要因となった。花腐菌核病は9月の気温が高く経過したことから、子実体の発生が遅く、発生もわずかであった。害虫では、高温傾向で経過したことで、ハダニ類、リンドウホソハマキ、オオタバコガの発生が多くみられた。特に、8月以降に増加がみられ、晩生種の被害が多くなった。

(2) 小ぎく

ア 育苗・定植期

3月から4月にかけて高温傾向で推移したことで、採穂用親株は概ね順調に生育し、8月咲品種の挿し芽や定植は平年どおりの時期に行われた。4月下旬から5月上旬にかけて低温や降雪があり、一部の圃場で定植後の凍霜害の発生がみられた。9月咲品種は、挿し芽、定植期とも概ね平年どおりの時期となった。

イ 生育期・開花期

8月咲品種の生育は、5月中旬以降、高温傾向で経過したことで初期生育は進み、平年よりやや早い着蕾となった。草丈は少雨の影響によりやや短い圃場もみられたが概ね平年並みとなった。8月咲品種の開花は、7月中旬から始まり、平年よりやや早く進んだが、7月下旬から猛暑となり、高温や乾燥により開花の遅延がみられ、採花盛期は8月上旬と概ね平年並みとなった。

9月咲品種の生育は、6月の定植以降、順調に進み、平年並みからやや早い着蕾となった。草丈は十分に確保できた圃場が多かった。9月咲品種の開花は、7月下旬から9月中旬にかけての猛暑の影響で、開花の遅延がみられ平年より遅くなった。開花期が大幅に遅れ、彼岸需要期以降に開花となる品種もみられた。

ウ 病害虫

病害では、白さび病やべと病の発生がみられた。白さび病は、梅雨時期に増加し、中位から上位葉まで発生する圃場もあったが、8月以降、発生は少なくなった。害虫では、6月からアブラムシ類、7月から9月にかけてオオタバコガ、ハダニ類、アザミウマ類の発生が多くみられた。また、クロゲハナアザミウマの発生地域の拡大がみられ、一部の地域では広く発生が確認された。

5 果樹

(1) りんご

ア 花芽の状況

令和5年産りんごの花芽率は「ジョナゴールド」は平年より高く、「ふじ」は平年並みであり、前年（令和4年産）と比較すると、「ジョナゴールド」、「ふじ」ともに低かった。弱小花芽率は、両品種とも平年より高めで、前年と比較すると「ジョナゴールド」は前年並み、「ふじ」は前年より高めだった。

イ 発芽期～展葉期

3月の気温が高く経過し、「ふじ」の発芽及び展葉は平年より14日早まり、観測史上最速となった。3月28日及び4月3日、4月10日には、一部地域に降霜が確認されたが、総じてこの期間の低温・降霜による被害程度は軽微であった。

ウ 開花期

「ふじ」の開花始期は、平年より14日早く、前年より7日早かった。満開期は平年より13日早く、前年より8日早かった。落花期は平年より12日早く、前年より7日早かった。

開花期間前半の4月22日から27日の日平均気温は平年を下回り、満開期及び落花期の平年差は、開花始期に比べ短くなる傾向が見られた。また、4月25日に県内各地で降霜が確認され、凍霜害が発生し、一部地域では側花や腋芽花にも被害が見られた。

エ 結実

「ふじ」の結実状況は、花そう結実率は概ね平年並だが、凍霜害の影響により、中心果結実率や花数結実率が平年を大きく下回る地点も見られた。

なお、令和5年産の「ふじ」の花芽率は71%、花そう結実率は92%であり、生育診断圃の県平均で見ると、作柄は平年作以上と判断された。ただし、凍霜害の影響により、結実率や果実の外観等は、園地や品種によって差が大きく、生育診断圃より低い値をとる地点もあった。

また、開花期間中の4月22日から27日に日平均気温が低かったことや、4月26日及び30日に降雨があったことは、訪花昆虫の活動など受粉環境にとってマイナスの要因となった。

オ 果実の生育

果実生育は、開花が早く、5月までの気温も高く推移したため、6月1日時点の生育は平年及び前年を上回った。しかしながら、6月から収穫期まで高温が続き、7月下旬から8月下旬は乾湿の差が大きかったことから、果実の肥大は徐々に停滞し、収穫期には概ね平年並みとなった。

収穫時の果実生育で、中生種の「ジョナゴールド」は平年比102%、晩生種の「ふじ」は平年比100%であり、両品種とも平年並みで収穫期を迎えた。

カ 収穫期の果実品質

中生種の「ジョナゴールド」は、糖度は平年よりやや高く、硬度は平年より低く、デンプン反応は平年より低かった。9月まで気温がかなり高く経過したため、着色の遅れが見られ、収穫期の目安の一つである満開後起算日数を超えて収穫が開始された。なお、一部の園地では、収穫前落果が発生した。

晩生種の「ふじ」は、糖度及び硬度は平年より高く、デンプン指数及び蜜入りは平年より低かった。10月の気温の平年差はやや小さく、果皮は着色し始めたが、11月には再び気温がかなり高く経過したため、一時的に着色が停滞する地域も見られ、収穫期の目安の一つである満開後起算日数を超えて収穫が開始された。

キ 気象災害

発芽期から展葉期にあたる3月28日及び4月3日、4月10日に、寒気と放射冷却の影響により一部地域に降霜が確認されたが、この期間の被害程度は軽微であった。

開花期間中の4月25日には、県内各地で降霜が確認され、凍霜害が発生した。結実率や果実の外観等は、園地や品種によって差が大きく、一部地域では側花や腋芽花にも被害が見られた。

生育期間中の6月から9月は、平年に比べて気温がかなり高く、盛岡では7月22日から9月1日まで真夏日が42日続いた。早生種から中生種の一部の品種では、果肉の軟化やみつ症、収穫前落果、日焼け、着色不良などの高温障害が発生した。品質面では、糖度は例年より高めとなる一方で、蜜入りの少ない果実が多くなった。

ク 病害虫の発生状況

病害では、黒星病や褐斑病、炭疽病、輪紋病の発生が多かった。黒星病及び褐斑病は、春季の気温が高く経過したため、一次感染が平年より早まり、前年多発園で多発した。炭疽病は、6月から7月の降水量が平年より多く、感染しやすい条件だった。輪紋病は、7月から9月の降水量が平年並み以上で、気温が高く経過したため、発生が助長された。

虫害では、キンモンホソガ及びシンクイムシ類、ハダニ類の発生が多かった。気温が高く経過したため、キンモンホソガは発生世代が1つ増加し、シンクイムシ類は1年2化型が優先して被害果が増加したと考えられた。ハダニ類は、夏季の高温によって発生が助長されたが、薬剤防除で増殖を抑えられた。

ケ 作柄評価

生産量は、全農岩手県本部の取扱実績（令和6年2月末時点）から、前年対比60%の出荷量となり、前年を大きく下回った。凍霜害や夏季の高温障害の影響で、過去最も少ない数量だった。

販売単価は前年比123%となった。全国的に凍霜害や高温障害の影響で入荷が少なかったことが要因と考えられた。

(2) ぶどう

ア 発芽期から展葉期

発芽期は4月20日で、平年より12日、昨年より6日早かった。3～4月の気温が高く推移したため生育は早まった。

展葉期は4月29日で、平年より10日、昨年より5日早かった。4月22日から27日まで、気温は平年並みから平年を下回る日があったことから、展葉の平年差は、発芽の平年差に比べ短くなった。

なお、5月8日から9日にかけて、一部地域で降霜や降雪が確認され、凍霜害が発生した。

イ 開花期から結実期

開花期は、開花期は平年より7日程度早く、前年より2日程度早くなった。5月の気温が平年並みで推移したため、発芽期や展葉期に比べて生育の平年差及び前年差は短くなった。

5月9日の降霜の影響により、結実率は平年より低く、収量へ影響する園地も確認された。

ウ 新梢伸長期

発芽、展葉が平年より早かったこと、6月下旬から7月初旬に気温が高く推移したことにより、新梢伸長は平年より旺盛となった。ただし、7月上旬の降水量は少なく、8月下旬まで乾湿の差が大きかったことから、新梢伸長は7月中旬から順次停止した。

房長は平年並みで、前年より小さく、果径は平年及び前年より大きかった。

なお、7月及び8月の乾湿の差と局所的な大雨の影響で、一部品種では裂果が見られた。

エ 収穫期の状況

7月及び8月も気温がかなり高く推移し、日照時間もかなり多かったことから、着色始期は平年より8日早く、着色終期は13日早く、着色は概ね良好であった。

また、糖度は平年より高く、果実の熟度も平年より早く進んだ。

オ 病害虫の発生状況

8月の局所的な大雨の影響により、べと病、晩腐病など病害の発生が見られた。

カ 作柄評価について

生産量は、全農岩手県本部の取扱実績（令和5年12月末時点）から、前年比87%の出荷数量となった。これは、凍霜害による結実不良の発生や産直など自家販売の引き合いが強く、系統出荷が少なくなったためである。

販売単価については前年比113%であり、堅調な単価が維持された。

6 飼料作物

(1) 牧草

ア 1番草

4月から6月にかけて、平均気温が高く推移し、生育ステージは平年並みから早く進み、特に5月の気温が高く推移した県南（奥州）では、牧草の十分な伸長が得られる前に収穫適期（出穂期）を迎えたため、収量が低くなった。また、県北の一部地域（二戸）では、5月初旬に積雪があったため、生育が停滞し収量が減じた。これらのことから、県下の収量は平年並み～やや不良となった。収穫最盛期の5月下旬～6月上旬の降水量は、5月下旬に少なく、6月で多くなったが、特に6月上旬は日照時間に恵まれたことから、好天のタイミングを見計らって収穫も進み、品質は良好であった。

イ 2番草

7月、8月は記録的な高温が続き、同時に降水量も極端に少なくなる一方で、8月中旬の一時的な大雨により、高温多湿の条件が重なり、県南地域（奥州、一関）では草地の下層の葉にムレが生じた。収穫期間の天候は概ね晴天、高温であったことから、2番草の収穫は順調に進み、収量は平年並み～良好で、予乾が進み品質も良好であった。

ウ 3番草

2番草収穫時以降も9月、10月は高温少雨が続き、牧草は高温障害（夏枯れ）が生じ、牧草の再生が不良となり、特に二戸地域ではリードカナリーグラスの冠さび病が一部圃場で確認された。収量はやや不良～不良となった。

(2) 飼料用とうもろこし

ア 播種～生育・絹糸抽出期

4月下旬～5月上旬に降雨が多かったことから、播種は5月中旬から開始された。播種盛期は5月下旬であったが、天候不良により6月にずれ込む事例もあった。6月以降の平均気温は高く推移し、特に7月～8月は高温かつ日照時間も多く～かなり多くなったため、生育は順調で、絹糸抽出期が早まった。

イ 収穫期

収穫は8月下旬より開始され、晴天に恵まれたことから、収穫最盛期の9月以降、収穫作業は概ね順調に進んだ。収量は、高温に恵まれたことから平年並み～良となった。

